

桃山の竜神さん

むかしむかしのこと。

桃山が、うつそうと木や草のおいしげった、昼でも暗い無気味な山だったころの話。雨が降るとふもとに大水の出る土地がらで、住民は水害になやまされておった。

「ああ、また雨じゃ。大水にならにやええが。」

「ほんに、雨のたんびに、こうも水が出ちゃ、かなわんのう。」

と、村人は口々にいいながら、うらめしそうに、厚い雲におおわれた空を見上げるのだった。そして、家の戸口に土盛りしたり、田んぼや畑の作物の被害を心配したりしておった。村の者たちの中には、山のたたりではなからうかとか、山に何か悪いものでも住んでいるのではなからうかなどと、うわさする者もあった。

庄屋さんのところに集まって、どうしたらよいかと話し合ったが、いい考えもようかばん。そこで、庄屋さんは、

「だれぞ、山へ入って、どうなっているか見てきてくれる者はいないか。」

とたのんだ。村人たちは、お互いに顔を見合わせておったが、なにしろ、昼でも暗い

山のこと、だれも返事をするものはなかった。そのうち、

「だれもなきやあ、わしが行こう。」

と、声^{こゑ}がした。みな^{みな}が声^{こゑ}のする方^{かた}を見ると、村^{むら}の若い衆^{わかしゅう}の吾助^{ごすけ}だった。

「そんなじゃあ、わしもいっしょに行こう。」

と、権六^{けんろく}が名乗り出^いて、ふたりが山へ出かけることになった。

村の衆に見送られて、ふたりは山を登って

いった。しばらくすると、うっそうと草のお

いしげった暗い山が、いちだんと暗くなつて

きた。権六は空を見上げて、

「おう、雲が真つ黒になつたぞ。こりやあ、

ひと雨来そうじゃな。」

と、つぶやいたとたんに、雨が降り出した。

どんどん雨足が強くなり、辺りは、真つ暗に

なつた。

「えらい降りじゃあ。前も見えんような雨じ

やで、きょうはもう無理だのう。」



「そうじゃなあ、早うもどつたほうがよきそうじゃのう。」

と、ふたりが話しておつた。その時のことだつた。グワーン、ガンと耳をつんざく大きな音がした。あまりの音の大きさに、ふたりはその場にたおれこんでしまった。すると、雨音に混じつて、こんな声がしてきた。

「わしはこの山に住む竜神じゃ。」

「吾助、聞こえたか。」

「おう権六、竜神さんの声じゃ、わしもたしかに聞いたぞ。」

稲光いなが走り、大地をふるわせるようなかみなりの音、竜神の声は続いた。ふたりが地にふしたまま、声のする方をあおぐと、

「天にのぼりたいが、水が足りない。水がもれているのじゃ、池を早く直せ。」

と、ゴロゴロ、ピカピカというかみなりの音に混じつて、たしかに竜神の音がする。ふたりは、こしもぬかさんばかりにおどろいたが、これは一大事と、村に飛んで帰ってきた。

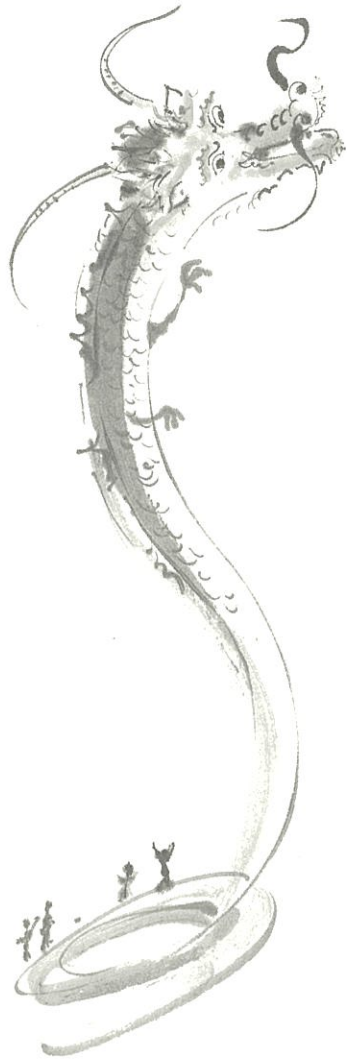
吾助と権六の話聞いた庄屋さんは、すぐに村人を集めていいつけた。

「竜神さんのお告げじゃ。ぐずぐずしてはならん。さつそく山の池を直すぞ。」

それを聞いた村人たちは、手に手にくわやつるはしを持って山へ入つていった。なる

ほど山の上の池は、大きな口を開けたように堤が切れておった。さきほどあれだけの大雨が降ったというのに、池の水は半分ほどしかたまっておらぬではないか。みんなは力を合わせて池を直しにかかった。土を運ぶ者、くいを打つ者、俵たねに土をつめる者と、めいめいが仕事を進め、切れた堤に土留とどめをした。幸いなことに、空は明るさをとりもどし、雨も上がり、作業ははかどった。

もうこれでだいじょうぶ、どこも水もれの心配はないぞと、仕事の手を休めてホッと一息ついていると、遠くの方で、ゴロゴロ、ガラガラとかみなりの音がして、空がにわかにかきくもり、また雨が降りだした。雨はますます勢いを強め、ザーザーと音をたてて降ってきた。にわか雨のこととて、雨宿りもできず、人々は大木の下に寄りかたまって、雨を見ておった。すると、みるみるうちに池の水がいつぱいになり、ゴォー、ゴォーとうずをまいた水が柱のようにふき上がっていくのだった。



「竜神さんが、天にのぼっていかれるぞ。」

「ほんに、竜神さんじゃ。」

「よかった、よかった。」

と、人々は口々にいいながら、喜び合った。

天に帰られた竜神さんは、泣いて喜ばれたという。そのなみだが雨のように降ってきて、村人には、その一つぶ一つぶが銀色に光って見えたという。人々は、天に向かって両手を合わせた。みるみるうちに雨雲は消えてなくなり、空は明るく、池の水面は静かになっていった。

その後、村では竜神さんのいかりがないようにと話し合って、池のほとりに、ほこらをたてて祭った。それからというもの、不思議に池はいつも水をたたえているというのだ。

大府地区に伝わる話です。

桃山公園のそばに、小さなお社があります。これはむかし、竜神のたたりがないようにと建てられたものです。池は、今では浅くなってしまい、水もわずかになってしまいました。竜神さんは、雷神とか水の神とかいわれています。